

生物学教育研究

東京・生物学教育研究サークル発行 No.429、2013年9月号

9月例会から

日時：2013年9月13日（金）18：30～21：00

場所：明星学園小・中学校理科室

参加者：浅見直子、小嶋妙子、鈴木綾子、鷹取 健、堀 雅敏、平山 勲、吉村成公。（小川郁さんは足の負傷で欠席）

夏休みに学んだことを中心に

9月例会は、まず、いつものように夏休みに学んだことを報告し合った。生物サークル・中央沿線理科サークル共催のフィールドワーク実施、科教協第60回全国研究大会（岩手大会）参加については多くの人を経験した。

1. フィールドワーク

13人が参加して、各々期待以上の内容が学べたと確信している。初日、岩手県宮古市田老地区では津波防潮堤の内側の低地に立って、地元の産業の様子から**被災前後の様子を語り部の人に聞いた**（費用は1団体4,000円。わたしたちはよく質問をし、これに的確に答えていただいた）。

（1）第1防潮堤の補修

海拔10mの高さがあるこの堤防の上に立って、周辺を見回しながら説明を聞いたが、地震で地盤沈下した分、津波堤防をかさ上げしながらの補修作業が始まっており、巨大なコンクリート製のテトラポッドが並べられていて、これは漁港湾内の工事で沈められるという。

（2）海岸付近の復旧工事

津波で破壊された第2津波防潮堤と第1津波防潮堤の間の地域には建設工事関係の建物は新築され、漁業関係の工場など「作業場」はどんどん増えているのが確認できた。

（3）津波襲来の様子、復旧・復興事業の進展

たろう観光ホテルはこの地域にあって、3階まで浸水・破壊をしており、わたしたちは

6階の部屋で説明を聞き、田老地区内を眺めることができた。このとき、社長の撮影した津波襲来のビデオを視聴した。

宮古市総合事務所では、津波防潮堤や国道 45 号を中心に**田老地区の模型**が作られていて、かつて居住していた人々が小さな家屋の模型に氏名を付けていた。この形にしか思い出が見いだせないように、まちの風景は変わってしまっているのがあった。

1933年3月3日の津波被災後の**復興案**では乙部地区の海拔 10m より高い斜面を削り住宅地の移転が提案されている。今回、この地域に重機が入り込んで掘削が始められていた。復興案（描画）が公開されていた。

今回、フィールドワークで初めて津波被災地を見た人、数回見ている人と様々であるが、被災地の人々との交流ができて理解を深めることができた。

田老総合事務所では『津波と防災-語り継ぐ体験-』（56 ページ、1969 年初版・1993 年 5 刷り）を発行しており、このたび入手できた。田老町の歴史を理解するにはこの小冊子も、それから高山文彦『大津波を生きる-巨大防潮堤と田老百年のいとなみ-』（205 ページ、新潮社、2012 年、1,600 円）が資料として有用と思った。

（4）釜石市の宝来館・根浜海岸、鵜住居町の人々

海水浴客で賑わった根浜海岸と幅の狭い防風林は大きく破壊されていて、沿岸流の作用も未だ何の兆しも見せてくれなかった。このまちの被災した東中学校・鵜住居小学校は解体され、更地になっていた。

堀 雅敏さんのビデオが 3.11 の消息を鮮やかに描いている。これも解体される防災センターに避難した 240 人程の遭難問題は、記憶しておかなくてはならないと思った。授業では、国土地理院撮影の斜め上からの写真が、その惨状を詳細に記録しているので教材にしたい。

（5）津波被災石碑

大槌湾からの津波のうち、鵜住居川を遡り、「ございしょの里」や周辺の町を破壊し「やまぎきデイサービス」近くまで迫った。一方両石湾から押し寄せた津波が「やまぎきデイサービス」の方へ向かっている。遡上高はどのくらいであったのか分からないが、150m 程高い地点に石碑が移されていた。付近は瓦礫置き場になっていて、やがて整理されるだろうが石碑の移動は反対だ。

（6）航空写真集資料

(4)~(5)については『津波被災前・後の記録 宮城・岩手・福島 航空写真集』pp.272-283(東北建設協会、河北新報出版センター、2012 年、2,000 円)に詳しい。宮古市田老町についてもある (pp.216+219)。(つづく 鷹取 健)

2. 個々の報告

これは割愛させていただく。

3. 紹介・配布された資料・参考文献など

1. 国立科学博物館・海洋研究開発機構・読売新聞社主催の展覧会（2013.7.6～10.6）
図録『深海 THE DEEP』1,800円：小嶋妙子
2. 「自然科学教育のあゆみをめぐって」（6ページ）：鷹取 健
3. 「2013年公開シンポジウム 東日本大震災後の復興の今を語る」『会誌 ACADEMIA』（全国学士会、98ページ）No.141、2013.8：堀 雅敏
「このままでいいのか!? 防潮堤計画」『自然保護協会』No.534、2013年7・8月、pp.2-13：
堀 雅敏
「震災後の海岸植物、海そして人-東日本海岸調査報告書-」（14ページ）2013年2月：堀
雅敏
「防潮まつり in 東京 東日本大震災と防潮堤計画 未来の海辺に何を残すか」（自然保護
協会・NPO法人 森は海の恋人主催／展示と講座（畠山重篤・長沼 毅・清野聡子）、2013
年9月1日、モンペル品川店、参加費1,000円）：堀 雅敏

東京支部秋の研究集会の準備

-10月20日（日）於：東陽小学校-

新学期早々に科教協第61回全国研究大会（東京大会）運営委員会（第4回）があるなど、この秋は忙しい日々になると感じる。

9月15日（日）、東陽小学校にて33人出席。松井吉之助「日本における理科教育の歴史」。全国研究大会・全体会の記念講演者の選定で長時間費やした。

鷹取個人の願いだが、「自然と社会」分科会担当委員を追加してほしい。

10月3日に三役会を行い、議題の整理を行う。

1. 生物サークル10月例会

秋の支部研究集会で報告される論文を担当者におねがいすることになった。

<生物分科会>

鈴木 綾子「中学校第2学年 動物のからだのつくりとはたらき」

鈴木さんは「教科書では人体中心の中身ですが、『動物の一員であるヒト』『動物の共通性』を柱にした実践報告」を予定している。

白砂正士「高等学校 生物基礎 生物の共通性」

白砂さんは、この1学期の実践で、「生物体を構成する物質と細胞を中心に」報告。

<地学分科会>

吉村成公「中学校第1学年 火山・地震・津波の学習」

吉村さんは、1923年関東地震も扱う指導計画を報告の予定。

<自然と社会>

山崎慶太「高等学校の研究旅行から 足尾銅山と緑化事業」

山崎さんは、銅山経営と環境とのかかわりを現地学び、日光を含めたシカの生態観察をさせた。彼らが学んだのか報告するという。

なお、他の学校やサークルの仲間も報告を予定されていて、1つの分科会で3～4の報告が準備されている。

2.実践記録集

サークル紹介が行われるので、実践記録集とその付録を運び入れたい。中央沿線理科サークル9月例会で、記録集の乱丁と落丁を点検した。鷹取が用意した付録のDVD5枚のうち、2枚が会員に手渡され、残りは支部集會に運ぶ。生物サークルでは、9月例会に10枚用意して、何枚かが会員に渡されたので、残りを支部集會に運ぶ。

中央沿線理科サークル9月例会で、DVDをさらに20枚はダビングしようか、と話があった。記録集と一緒に頒布の予定。この記録集では一部落丁があるので、印刷して挟み込むことにしようではないかと話された。